

## 第8回 交野市基本構想審議会 議事概要

- 【日 時】 令和4年7月13日（水）午後3時～午後5時
- 【場 所】 交野市役所 別館3階 中会議室
- 【出席者】 委員15名（欠席5名）  
事務局7名
- 【傍聴者】 なし
- 【議 題】 1. 基本構想及び第1期基本計画素案の審議について  
2. その他

### 1. 開会

- 事務局による挨拶。委員20名中15名の出席確認。
- 委員長による挨拶と本日の議題の確認。

### 2. 議題1 基本構想及び第1期基本計画素案の審議について

（事務局）

事務局から以下の内容・資料について説明

- ・資料1「第6回審議会における指摘事項への対応について」
- ・資料2-1「第5次交野市総合計画 基本構想素案（7月13日版）」
- ・資料2-2「第5次交野市総合計画 第1期基本計画素案（7月13日版）」

（会長）

- 前回までの振り返りとして、意見にどう対応いただいたかの説明があった。これまでに基本構想、基本計画を議論してきたが、今日はパブコメ前であり、しっかり押さえておかなければならない。前回の振り返りを確認いただき、質問に対して的確に説明できているかの判断を頂戴した後、前回から意見が出ていた指標について検討いただきたい。
- ただ今の説明では、しっかりと事務局に対応いただいていると思うが、気になる点、追加で説明いただきたい点があればお願いしたい。

（委員）

- 政策分野1「子育て」について、青少年育成に関して放課後児童会も子育てに入れたと説明があったが、過去の意見の中で、子育てが就学前や小さい子どもがメインで、高校生やそれ以降の青少年も含めた年齢に言及がないという指摘もあったかと思う。放課後児童会、青少年育成を「子育て」に入れたことで、より高校生以降の青少年に関する扱いがなくなってしまったという印象を持った。
- 今から付け加えるのは大変であるが、子育ての施策の、例えば放課後児童会が3番目であるが、4番目として、それ以降の青少年施策を記載することや、あるいはスポーツ、学習の場所、生涯学習のニーズも高いと思うので、そうした高校生以降の青少年に関する言及が必要と思った。
- 政策分野19「道路・公共交通」で、前回、多くの方から公共交通の人口カバー率でほぼ網羅しているけれどもという記述があり、実際に困っているところが非常に多いということを含んで、かなり記述は入れていると思うが、地域の公共交通による人口カバー率は94.5%で市街地をほぼ網羅していますという記述は残っている。この94.5%という数字で網羅しているとするのはどうなのかと思う。というのは人口のカバー率は、確か交野市では鉄道の駅から1キロ以内、またバス停から300

メートル以内であれば公共交通がカバーしているという定義だったと思う。それは市によって違っており、例えば坂道の多いところであればもう少し狭く取るとか異なってくるため、この 94.5%でほぼ網羅していると言えるのかは評価が分かれると思う。

- そのため、例えば数字まで書かず、ほぼ網羅しているにとどめておくか、書くのであればこの数字の意味について説明が必要だと思った。

(事務局)

- 子育てに関してどの年代までの子どもが含まれるのかについて、事務局として、1つは未成年といったところがあると思うが、中学生未満までを想定した書き方に見える部分があったのかと思う。基本的には、子育て支援では幅広く切れ目ない支援が必要ということで、あえて年齢には触れていない面がある。
- 高校生以上の部分はどうなるのかについては、例えばスポーツ振興・文化振興にすれば、生涯学習の中で期待されている部分があり、決して高校生に対して何もしないということではなく、全体の記載の中でカバーできるのではないかと考えている。
- 公共交通のカバー率に関しては、市によって位置付けが行われている。行政として数字をあえて出す必要があるか、持ち帰りで検討させてもらいたい。

(会長)

- 子どもの扱いは前回から意見が出ており、どの部分が「子育て」に移ったかという意見かと思う。

(委員)

- 私が申し上げたかったところは、前回、確か青少年育成が放課後児童会のことしか書かれておらず、青少年、もう少し広く幅広い未成年も含めた施策が必要ではないかと思った。そこが子育てに入ってしまったことで、より小さい子どもの子育てだけが中心になってしまった。あとは、学校教育に関して、青少年、若者、青年といった世代の施策が見当たらないのが気になった。

(事務局)

- こちらの政策分野の範囲を整理した趣旨としては、政策分野や施策で同じ目標を共有できているかで整理したという部分がある。
- 指摘内容は、青少年に対する支援や施策はどこから読めるのか、という趣旨で質問いただいているかと思う。青少年に対する支援がスポーツ・文化活動の支援だけかと言われると意見等はあると思うが、例えば 27 ページ生涯学習施策の 1 つ目の中で、「ニーズを踏まえて若者や現役世代が参加しやすいスポーツ・文化教室の実施」や、2 番目として「誰もがスポーツ・文化活動に身近に親しむことができるよう」という形で、かなり幅広い年代に対して支援をしていく、特に若者参加率を高めていきたいという趣旨で書いてある。これらについては当然高校生や、もっと若い子どもも対象になる。生涯学習をはじめ幅広い分野で青少年育成につながる考えが示されており、読み取れるのではないかと認識している。

(委員)

- 先の意見にプラスして、スポーツ振興が若者支援とか青少年育成として読み取れるのかというと、難しいのではないかと思う。例えば、引きこもりの問題や家庭内暴力の問題、就労問題等があり、どちらかといえば 11 ページ子育て施策の 2 番目、「困難を抱える子どもや家庭に対する支援体制の充実」に係ってくると思う。
- しかし、ここの内容を見ると「家庭環境などに関わらず、乳幼児・児童が心身ともに」と書いてある。小学生の子供を対象にした呼び方が児童であり、中学生と高校生に対して児童という言葉は使

わず、学校現場でも生徒という言い方になる。ここでは、家庭環境などにかかわらず、困難で色々な課題を持っている子どもや若者に対する支援が抜けている。

- そのため、ここに4番目として、若者支援を入れていただけたらありがたい。難しいようであれば、「乳幼児・児童」という表現ではなく、子供という表現に変えることで、より広い層にアプローチできると思う。

(会長)

- これはまだ検討余地ありかと思う。

(事務局)

- 事務局の意図としては（子どもは）18歳未満までが対象と想定しているが、確かに誤解を招く可能性があるため、表現の修正は持ち帰って検討する。

(委員)

- 文字表現の関係で述べたい。10ページの子育ての目標に地域の「つながり」とあり、次の現状と課題で、今度は漢字で「繋がり」という表現がある。1つは地域のつながりじゃなくて、地域とのつながりという意味合いかと理解したが、表現としては、「と」や「で」は必要ではないかと思う。地域福祉活動計画を見ても、「地域の」という表現を取っており、そうすべきと思った。
- もう1つは、1冊の中で「つながり」を片仮名や平仮名とするか、漢字を使うかは統一すべきかと思う。また、語尾に「取り組みます」という表現があり、全部を見たが、最後の語尾は全部統一されているが、文章途中の「とりくみを」の場合、漢字「取組み」の「み」を打っている部分とか、「取組」の漢字2つの場合、それから間に「り」と「み」が入っており3種類ある。単純な話だが統一した良いと思う。

(会長)

- 大事であるため事務局が確認いただくようお願いしたい。

(委員)

- 基本構想の用語の33ページにDXがあるが、35ページにもデジタルトランスフォーメーション(DX)とある。重複のため整理をお願いしたい。

(事務局)

- 漢字や表記揺れ等はもう一度確認する。

(副会長)

- 具体的な修正にはならないかもしれないが、生涯学習の最初の課題では「全ての人が生涯を通じ自らの人生を設計」と書いてあるが、具体的な内容はスポーツ、文化活動、図書館となっており、現在、大学には社会人入学も増えており、何歳になっても学ぶ風潮であるため、そういう空気感の下にしっかりと学ぶという要素が出ていると良いと思った。
- 関連して、一般的に、放課後児童会の入所条件には就労者とあるが、大学で学ぶ人は対象外のようなものである。優先順位は低くしても、そのような人も入れるようになったら良いと思うため指摘させてもらう。

(会長)

- 広い意味での生涯学習をどう捉えるかについてブレークダウンした項目が少し作れるかと思った。

(事務局)

- 生涯学習の部分については、内容を確認の上、方向性や方針があれば表現を検討したい。

(会長)

- 関連する行政計画として生涯学習基本計画が書いてある。この大きな項目の1つがスポーツ・文化と図書館だけではないと思う。他の施策分野に割り振っているのであれば、どこに割り振っているのか。これは社会教育系であるため、もう少し入ってくるという気はする。ご確認いただきたい。

(事務局)

- 基本的に、基本計画の中では肅々と法定で行うことについては書かずに、政策的に進めていくものを書いている。今、述べられた箇所については確認の上、表現を整理したい。

(会長)

- もう1つの大きな案件である指標について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

事務局から以下の内容・資料について説明

- ・資料3「進捗確認指標一覧」

(会長)

- 説明いただいたとおり具体的な項目が出てきた。ある程度、分野別に適切な指標化が提案されていると思うが気づく点があればお願いしたい。

(委員)

- 2枚目の4-15「都市環境・住環境」の2番目の住宅取得支援事業補助件数。4-19「道路・公共交通」の要舗装補修延長距離について予算でほぼ頭打ちとなる指標である。実施すべき箇所が現状できていないのは、予算がないから順番待ちということを知っている。予算増等の抜本的な部分が変わらない限り、多分数字も変わらない。そういう意味で、指標としてふさわしくないのではと思う。
- 3-14「コミュニティ・市民活動」に自治会加入率があるが、これは毎年各地からデータ取っているのか。そういう話を聞いたことがないが、高いのも本当なのかと。これを実施するのであれば、少なくとも年に1回は厳密に各地区に調査をかけなければ意味がないと思う。
- また、1枚目の2-5「地域福祉」のボランティア活動の参加者数については、ボランティアセンターに登録されているデータと思うが、各地区でもたくさんのボランティアが活動している。恐らく、そういうデータは表に出ないため疑問を感じた。

(事務局)

- 1点目、予算で頭打ちになる事業は指標化に適さないという意見に関して、市も限りある予算の中で取り組んでいるため、必ずしも右肩上がりで進むのではないということに対しては、ごもっともな部分がある。一度、指標化に適するかどうか持ち帰って検討させてもらいたい。
- 2点目の自治会加入率に関しては、担当所管から最新の令和3年度は78%であるという情報をもらっているが、計算方法を確認して、また回答したい。
- ボランティアに関しては、言われるようにボランティアセンター登録数を確認している。その他の多岐にわたるボランティア活動があるのは述べられた通りかと思うが、行政として、しっかりと数値を確認できる方法としてはボランティアセンターが確実である。
- ボランティアセンターの対象者が増えることで、ボランティア活動全体が膨らんでいけば良いと思っている。どうしても把握の限界があるため、ご容赦いただければと考えている。

(会長)

- 予算規模は、ご検討いただくということである。自治会は実数値がどうなっているか、ご確認いただきたい。
- ボランティア活動は多種多様にわたる。地域福祉に関わるボランティア数なのか、一般のボランティアの方もいれば、観光ボランティアやガイド、色々なボランティアがあると思うため、どの範囲までを対象とするかご確認いただきたい。

(委員)

- 2点ほど。1つは誤記だと思うが、4-19「道路・公共交通」の施策2番目、「公共施設の維持・継続」は「公共交通の維持・継続」で良いか。

(事務局)

- そうである。

(委員)

- もう1点述べたい。指標で「公共交通で快適に移動できていると思う市民の割合」は、市民アンケートになると思うが、質問の詳細設計時に十分注意しなければならないことがあると思う。1つは「快適に移動できている」の「快適」は目標が高過ぎるのではないか。当然、乗り継ぎ等を行うため、いわば支障なく移動できているというような表現にしないと、目標が高過ぎるかと思う。
- また、「公共交通」の定義は、普通、一般の市民が考えると電車や路線バスを考えるが、実はそれ以外にもコミュニティバスやタクシー、ボランティアによる自家用車の有償送迎などがある。このため公共交通といっても捉え方によっては沢山あるため、一般市民が鉄道と路線バスと捉えると違う評価となる。この辺は詳細設計時に注意する必要がある。
- 加えて、これは私見ではあるが、路線バスの空白地帯を埋めるために、最近、シェアサイクルがかなり導入されてきている。交野の場合は山や山手の坂道が多い住宅街が非常に多く、そこ道路の結節点を結ぶために電動アシストサイクルが非常に有効な手段になってくると思っている。そこに拠点を設けることによって、路線バスの空白地帯を埋めることもできると思う。
- 公共交通の維持・継続の1番目の黒丸で「持続可能な公共交通機能の仕組みを公共交通事業者・関係機関と連携しながら進めます」と書いている。この関係機関がどこまでかにはなるが、例えばシェアサイクル民間事業者との連携も読み込めるのではないかと個人的には思う。
- そうすると、現在の指標が公共交通で快適に移動できているとさらっと書いているが、厳密に言うと、公共交通機関等を利用することで支障なく移動できている、というような表現にしてもらった方が良いのではないかと思う。特に市民アンケートの際は公共交通の定義を明確にしないと変な数字になると思うためご注意ください。

(会長)

- 原課と一度ご検討いただければと思う。

(委員)

- 前々回も挙がっていたと思うが、目標、施策に対して指標が対応しているのか、と思うものが幾つかある。状況変化に即したものを指標として扱わなければならないと思う。今までのものを活用していると思うものが何点かあった。
- 例えば、産業振興・労働について、施策では就労支援の充実が挙がっているが、指標はこれに対応していない。4-20「公園・緑地」では子供たちが伸び伸びと遊べる公園が出ていたと思うが、それに対しての指標が挙がっていない。5-23、5-24 で、幅広い世代を対象としての環境学習についても

指標項目には、それを測るようなものがない。例えば学校での実施状況といったものを測れるのではないかと感じた。

- 2点目としては、指標に市民アンケートが採用されているが、例えば対象者を絞った形で取った方が良いと思うものがいくつかある。特に子育てのところでそう感じており、施策1で、「困難を抱える子どもや家庭に対する支援体制の充実」に対して、「安心して子育てができる環境が整っている」という市民アンケートの結果が果たして、この状況を測るのに適切なものか。高齢者や色々な方が、どこまで今の子どもたちの状況を分かっているのかと思った。
- 例えば、1-2も1-3も1-4もだが、子供たちが伸び伸びと育っていると思う市民の割合、生き生きとしている市民の割合、これらを市民アンケートで測って、果たして指標として役立っているのか、私としてはクエスチョンが付くと感じている。
- 例えば、子育てしている世帯、保育園、幼稚園、学校関係の保護者、もう1つは子供自身に聞いて、それを測るというやり方があっても良いと思った。例えば1-3の「小中学生は元気でいきいきしている」と思う市民、ではなく、小中学生自身に幸せ度や満足度を聞くとか、そういった形の指標があっても良い。学校施設に関しても同じこと感じた。
- 3点目として3-11「防災・減災」について、「地域において防災・減災の取り組みが進んでいる」と思う市民の割合とあるが、場所や具体的内容、体制自体を市民がどれだけ知っているのか疑問があるため、例えば取り方によっては、それを知らせる目的でのアンケート利用というのもある。交野市で行っている防災・減災に対する体制を盛り込んだ形のアンケートを実施することで伝えるという方法もあると思った。提案みたいな形にはなるが意見として述べさせていただいた。

(事務局)

- 指標が各施策に完全に対応できていないという指摘であったが、当然、事務局としてもできる限り揃えてピックアップできれば良いと考えて調整を進めてきたが、現実として数値が取りにくいであるとか、限界がある部分もある。現場との調整において、施策トータルとして見たときに、全体的な確認の意味として望ましいのでは、という指標となるよう整理を進めてきた。
- 2番目にアンケートの対象者を絞るべきという意見もあるが、各政策分野には個別の行政計画があり、それぞれが審議会等を行い、計画を立てる上でのアンケートを個別の観点から取っている。総合計画はむしろ個々の分野をトータルで見たときに、市全体として望むべき方向性に向かっているかの確認として、アンケートを取っていくべきだと考えている。
- 個別のアンケートは個別の分野でしっかりと行い、今回の市民アンケートは市民全体に満遍なく伺い、かつアンケートの問い方に関しては、広い意味で政策分野の目的にアプローチできているか、という表現として設定している。

(委員)

- 市民アンケートの趣旨は分かるが、のびのびと育っているやいきいきしているは主観部分がある。その主観部分を行政の進捗確認指標として設定することが適切なのかと感じたため、違う形の項目設定ができなかったのかと思った。
- 先程の地域のボランティア活動の参加者数や、小地域ネットワーク活動の参加者数にもあるが、果たしてそれは「地域のつながりづくり」といったことを測るのに適しているのかということもある。この指標の立て方で測れるのかという視点をもう一度持っていただけるとありがたい。

(会長)

- まず、項目そのものの1対1対応型の指標は難しい。また、総合計画に関しては、施策のイメージに基づいて漠と全般的に感じ取れる雰囲気として、のびのびという形でしか取れないと思う。

- 市民全員にアンケートをするわけでもなく、何万人ではなく2,000~3,000のピックアップである。地域集中型ではないため、全員の意見集約は不可能である。それを統計的に処理しなければならないことは分析上、仕方ないとしか言えないと思う。
- 子育ての方で、幾つから幾つまでの保護者なのか、小学生の保護者なのか、その中で限定して全部送るのも難しい。例えば、この私でも昔は子育てをしており、もしかしたらその人たちから見たら今の交野が弱っているのではないかと、私たちの時より悪くなっているのではないかと、と聞くのであれば、現在、子育てをしていない人にも聞かなければならない気もする。
- 総合計画はある方向性を見据えたものであり、その辺りは調査の限界性にも関わってくると思う。しかし、おっしゃるようにできるだけ正確に現状把握できる、将来を把握できる方が良いのだが、関係する項目を全部並べていくことになるため難しいと思われる。先の説明のような限界があるのだろうと考える。

#### (委員)

- 先ほどの委員の指摘は施策と指標のつながりに関してだと思う。同様に各分野の目標と指標を見比べたときにつながりが薄いのかなと思う点がある。回答を求めるのではなく、つながりが薄いという指摘のみ行いたい。
- 1つ目は施策分野4「教育環境」で、ここで将来の希望を抱き寄せていることが目標に入っていると思うが、将来の希望、子供たちが希望を持つという部分が指標にないと思う。
- 施策分野12「消防・救急」で、目標には未然に防ぐという観点は入っていないが、施策のところには未然に防ぐという補強する形で入っている。それが指標にも総出火件数という形で入っている。その辺のつながりの部分に違和感がある。
- 15「都市環境・住環境」で「誰もが住み続けたくなるまちを目指す」という目標の骨子部分が指標にはないと思う。そのようなところで、目標と指標のつながりの部分を全体的にもう一度チェックいただければと思う。
- また、先ほどのアンケートのところで、例えば子育てしている世代なら子育てしている個別の世代にアンケートを行う際には工夫ができるのではと思った。子育て世代に特化したとかであればLINEを活用するなど、色々工夫もできると思うため、それらもアンケートの際に考慮しながら進めていただきたいと思う。

#### (事務局)

- アンケート指標については、確認を進めたい。

#### (会長)

- 目的に即した指標化が行われているかは、全国を色々見ているわけではないが、いくつか見てもフィットしている項目ばかりではない点は、他市も含めて見てみれば分かると思う。取りやすいデータなのか、これを出したいという意図なのかは分からないが、結果的に会議として指摘していく必要はあるが、ある一定限界性はある。
- 担当課がもう1つブレークダウンした基本計画等を持っているため、そこで指標管理するとか、それを総括して横並び的にチェックしていく項目として、大きく外れていなければ代表する指標か、という判断を一定せざるを得ない場面も出てくるかと思う。
- 絶対に変えていただきたいという指摘、また、こちらの指標の方が適切ではないかということがあればご意見いただければと思う。

(副会長)

- アンケートはともかく、既存のデータから指標を探さなければならず、非常に苦労されていると思うため、言いにくいのではあるが、施策分野 10「人権・多文化共生」で「男女共同参画社会の推進」に当たる指標がないことが気になる。1つ目と2つ目が両方ともイベント参加者数であるため、これをまとめて、もう1個加えたら良いと思った。国の男女共同参画の成果目標では、公務員の男女比率や上位職の男女比率もあり、25歳から44歳の女性の就業率といった色々な指標があるため、代表的なものを入れていただければと思った。
- あとは、アンケート設問で、「何々と思っている市民の割合」とあるが、尋ねる際にイエスかノーかでは答えにくいものもありそうであり、5段階にするなどの工夫をしていただければと思う。先に意見があったように、特定の人に聞くのも、アンケートの最後に「以下のこの質問は二十歳以下のお子さんのいる方のみお答えください。」とすれば、1つのアンケートでもできないことはないと思う。どちらが適切かも含めてご検討いただければと思う。

(会長)

- アンケートは今年が基本構想策定にあたっての第1回目であり、これから数年続くベースになると思う。しっかりとアンケート設計を行う必要があり、LINEのようなSNS系を使うこともありうるかもしれない。年齢構成別に聞いたりすることは、年齢等の個人を特定する条件までアンケートの中に盛り込まなければいけないが、テクニック使えばできないことはないと思う。今回はダイレクトメールだと思うが、その辺りの方法やサンプル数、選択肢、条件設定でアンケートを飛ばすことも含めてアンケートを設定いただければというご意見である。こちらも大事だと思うため、よろしくお願ひしたい。
- 男女参画の件については、イベント参加の人数が確かに並んでいる。もう少し実数値があればという意見であるため、検討いただければと思う。

(委員)

- 2-6「高齢者福祉」の健康寿命のことが気になる。「日常生活動作が自立している期間の平均」とその理由には、医療や介護に依存しないで自立した生活とあるが、私の感覚では趣旨が違っていると思う。医療や介護に依存しても自立した生活ができる人は健康寿命なのか、介護に依存しない人が健康寿命なのか、担当課で確認いただければと思う。
- もう1つが自治会の加入率について、例えば私が住んでいる私市地区では自治会よりも区に入るという考えがあり、交野市の場合は自治会と区を混同する確率が高いと思った。区によっては入会条件も違っており、自治会としていない区もあるため、その辺をまとめていただいた方が良いと思う。

(委員)

- 1-1「子育て」で、施策2「困難を抱える子供や家庭に対する支援体制の充実」に関連するのだが、相談件数を取っている自治体が結構多い。相談件数であったり、幼児か児童期かはその自治体で変わるが、そういった方法もあるのではということでは付け加えさせてもらう。

(事務局)

- 相談件数も候補の中に入れていた。しかし、方向性として矢印をどちら向きにするのか。相談件数が増えれば良いのか減れば良いのか、その立ち位置によって変わるため難しいと判断し、今回採用しなかった。

(会長)

- しっかり担当課と相談しているようであるため、よろしくお願ひしたい。



- 私の意見でさっと述べたい。例えば、3-11の「防災訓練の参加者（市又は…）」と書いてあるが、延べ人数なのか実際どの数字が出てくるのか、不明な箇所が少し見受けられる。
- 他にも自治会の加入率がある。当然のことながら4-19の「要舗装補修延長距離」。恐らく市道だと思うが、国の道路や府の道路の補修率は入れず、私道も入っていないと思うため、集計が明確になるような基準を確定しておいていただきたい。出てきた数字が混然と合わさって出てくるのは良くないため、事務局でチェックいただけたらと思う。

（委員）

- 4-15「都市環境・自然環境」の「地区計画届出件数」だが、市街化調整区域で農地をなくして一段の住宅開発を進めていくような地区計画も含まれるのであれば、自然や緑を守る観点からすると、増えるほど良いものではないと感じた。
- 1-2「幼児教育・保育」で、全市的な保育の向上に取り組む園を増やしていくということで、方向性が横線で現状維持だが、矢印としては上げていく必要があると思っている。看護師とか障害児の保育等、どの園も1つくらいのメニューは取り組んでいると思うが、取り組むメニューを増やしていくということで上げていく必要があると思っている。補助の利用件数は、現状維持では駄目だと思うため工夫していただければと思う。

（委員）

- 委員が述べた箇所では横矢印になっているが、単位がパーセントになっているためややこしいと思う。示し方の問題だとは思いますが、人権啓発関連イベントや防災訓練の参加者数では人数は出ている。できれば市の方向性として回数のようなものを付けていただけないかと思う。

（会長）

- 開催回数とするのか、開催回数を入れて総合計数とするのか。回数が多くても数人の参加者であれば問題であり、沢山でも1回だけの開催であれば示さない方が良い、また地域ごとにと話もあるかと思う。どうやって指標を捉えるかについては、ご指摘のとおりだと思うため、検討いただきたい。
- パブリックコメントの予定はいつからか。

（事務局）

- 8月から9月までの一月間となる。

（会長）

- 本日、非常に沢山の指摘をいただいた。これに関してもう一度、集まっていただく時間は恐らくないと思う。このままでは難しいという指摘もあったため、一度これらを担当課と確認いただいたものを報告いただくため、このチェックは私にお任せいただいてもよろしいか。パブコメ前の確認は、委員の皆様のご意見が全部通るとは断言できないと理解いただいたうえで、委員長のご私預かりとさせていただきます、私にチェックさせていただいてパブリックコメントに回させてもらうことを了解いただきたいと思っている。もしよろしければ、ご了承いただけたらと思う。
- パブリックコメント後に、委員にまた集まっていただくと思う。パブコメでも意見が出てくると思うため、私が見た段階で全部決まるわけでは全くない。もちろん各委員でもパブリックコメントの内容をご覧いただけるため、その指摘を受けて修正案に変えていただいても結構である。もう1回チェックいただけたらと思う。
- 事務局にて修正いただいたものを1回確認させていただき、委員の皆様にも公表するため、申し訳ないが今日の意見に対しては事務局から提案いただいたものは会長一任としてもよろしいか。

(一同)

- (異議なし。お願いしますの声。)

(会長)

- 無理を言い申し訳ないが、一度、出来上がった段階で私の方で確認し、パブコメに出して、またこの会議の流れで事務局から説明いただけると助かる。
- 本日も沢山の意見をいただき感謝申し上げます。今後の進め方については事務局に戻したい。本日は、皆様のご協力感謝申し上げます。

### 3. 議題2 その他

(事務局)

- 本日いただいた意見を取りまとめて会長にご確認いただくこととしたい。委員の皆さまにはメール等でご確認いただくことで対応としたい。
- パブリックコメント期間は8月4日(木)から9月2日(金)を予定している。いただいた意見については、対応を検討して、9月15日(木)10:00から開催される総合計画審議会で最終確認としたい。

### 4. 閉会

会長による閉会の挨拶。